

平成31年度 唐津市立東唐津小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
みんなと確かに伸びる子どもの育成 「ひびき合うあいさつ・がんばる勉強(読書)・しっかり仕事」ができる果つ子の育成	①学力の向上(主体的・対話的で深い学びの実現・学習を支える集団づくり) ②一人一人を大切に育てる教育(個別の支援の充実、多人数集団への適応力育成) ③地域との連携(地域諸団体との積極的な交流) ④人間力の向上(断れないあいさつの徹底、コミュニケーション能力の向上、キャリア教育の充実) ⑤業務改善・教職員の働き方改革による、ゆとりある教育活動の推進

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価				
①基礎学力の定着と活用する力の向上を図る				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	・指導法の工夫や学習習慣の定着に関する取り組みと学習集団づくりによる学力の向上	・全国及び県の学力・学習状況調査における前年度比向上を目指す。 ・学校評価アンケートにおいて学校の取組に対する保護者の肯定的評価90%以上を維持する。	・基礎基本の定着を図るため、共通理解して宿題やプリント等で反復練習を行う。 ・自分の考えを説明する機会を多く設け、児童の学習意欲を喚起させるような問題の開発、また問題解決的な学習を積極的に仕組む。 ・各学年に掲示してある「説明する時のナイス言葉」をどの教科でも活用し、児童の発表や説明の充実を図る。
教育活動	●志を高める教育	児童のキャリア観の育成	・学期始めや児童集会、学級活動や総合的な学習等で、発達段階に応じた職業観や自分自身の成長について目標意識を自覚させ、将来や自分の成長に対しての展望を持っている児童の割合を75%以上にする。	・全学年で学期始めの目標や人権の日のアンケートで、どのような人になりたいのかを考えさせて、定期的にフィードバックしながら児童の成長を促す。 ・毎月の児童集会で、「どんな人になりたいか」「目標」「そのために頑張ること」(取り組み)を児童に発表させ、意識を高める。 ・児童の目標を校内に掲示したり、学校便りで保護者に知らせたりして、キャリア教育に対する関心を高める。
②校内体制を充実させ、一人一人の特性に応じた支援を行う				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○一人一人を大切に育てる教育の充実	・個に応じた適切な支援の策定・実践 ・多人数集団に対する適応力や対応力の育成	・月1回の定例「支援会議」の開催及び必要に応じた会議や研修を確実に実施する。 ・月1回の定例「子ども理解研」等、情報交換会を確実に実施する。 ・多人数集団に対する適応力の育成のため、他校との交流学級体験を年2回行う。 ・ソーシャルスキルアップを目指し、学校全体で系統的に取り組む。 ・学校評価アンケートにおける「学校では一人一人が大事にされている」という肯定的評価を児童、保護者とも80%以上で維持する。	・スクールカウンセラーによる教育相談のより一層の活用。 ・各学年、各組によるキャリア教育の充実を図る。 ・定例及び臨時の「子ども理解研」による情報交換と共通理解、事実への早期対応を行う。 ・「支援会議」や「ケース会議」の開催など必要に応じた特別会議による支援策・対応策を策定する。 ・巡回相談の活用や専門機関との連携を推進する。 ・ソーシャルスキルアップの計画的な取り組みを行う。 ・保護者への密な連絡による連携の充実を図る。 ・近隣小学校との積極的な交流学習の実施など、多人数集団に対する適応力を育成するための教育計画を策定し実践する。
③職員のゆとりを広げ、地域の教育力を学校教育へ活用する				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○地域との連携	・教育活動での地域人材の活用 ・地域団体との積極的な交流 ・地域行事への児童の参加意欲の育成	・学校評価アンケートにおいて「保護者・地域との連携」の職員内部評価、保護者評価ともに80%以上を維持する。	・地域人材の活用、地域団体との交流、地域行事への児童の参加のより一層の推進を図る。 ・各種団体との協力関係の維持・向上。 ・総合的な学習の時間、生活科、家庭科、クラブ活動等具体的な場面を設定して、学校ボランティアの依頼をする。 ・地域行事への興味・関心を高める広報活動を行う。 ・地域の方々への感謝の気持ちを育成し、地域・郷土を誇りに思う体験活動を実施する。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進 ・地域行事に対する職員の負担感の軽減	・各分掌や各学年(低・中・高学年)の連携及び情報共有により、効率的な業務の推進、協働意識の更なる向上に取り組む、教職員の自発的時間外勤務について前年度の1か月当たり時間(22時間)を維持する。 ・地域連携における職員の負担感軽減を実感する職員の割合を80%以上とする。	・「学校における働き方改革」についての管中、通知文等とおして働き方改革の目的を周知し教職員一人一人の意識改革を図る。また、保護者・地域に対しても説明理解を丁寧に行う。 ・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、校務分掌の役割分担を平準化する。また、業務量の多い取組については協働作業を推進する。 ・校務サーバーのフォルダを分かりやすく整理して、誰でもいつでも活用しやすいパソコン環境を整え維持する。 ・土日に行われる地域連携行事の参加者について、必要最小限の人数に抑え、年度初めに割り振りを行う。
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・明るい返事・元気なあいさつができる児童の育成	学校評価アンケートにおいて明るい返事と元気なあいさつが「よくできる」という児童の割合、保護者の「児童は返事やあいさつがよくできている」という肯定的評価をともに80%以上とする。	・授業や掃除、給食の時間などでの気持ちの良い元気な挨拶や返事の励行を徹底する。 ・全校朝会や児童朝会などでのあいさつの大切さの講和及び挨拶や返事を進んで元気よくしている児童の紹介をする。 ・計画委員の挨拶運動の継続により、一層の取り組みの改善や工夫を行う。 ・道徳をはじめとする教育活動を充実させ、挨拶の必要性や重要性を伝える。 ・保護者や地域連携行事等での地域の方や保護者による積極的な挨拶の呼びかけを依頼する。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめ問題への対応	・道徳教育、人権・同和教育、各種の取り組みによる思いやりの心育・いじめの撲滅	・すべての児童に「いじめを許さない」という心情を育成する。 ・いじめ事象の早期発見と早期解決を期す。 ・学校評価アンケートにおいて学校の取組に対する児童の肯定的評価80%以上を維持し、保護者の肯定的評価を80%以上とする。	・トラブル発生直後の事実や経緯の確認、原因の究明、児童の思い、「いじめ」の有無の見きわめ、当日中の保護者への連絡・連携を徹底する。 ・あらゆる機会を活用しての「いじめを許さない心」「相手を思いやる心」「人権尊重の意識」等の心情面のより一層の育成を図る。 ・月1回のアンケート実施および月1回の「いじめ・人権」を考える日の継続・充実、内容の公表を行う。 ・多方面からの児童に関する情報の収集、全職員による全児童の見守り体制を強化する。 ・SCによる教育相談やエンカウンター、SSTなどの充実。 ・いじめに関する職員研修を行う。
教育活動	●健康・体づくり	・積極的な運動習慣への意欲付けとその定着 ・自らの健康に対する関心と健康保持意欲の向上	・学校評価アンケートにおいて朝のマラソンへ積極的に参加し、運動や健康に興味・関心を持つ児童の割合、学校の取組に対する保護者の肯定的評価ともに80%以上を維持する。	・体育的行事だけでなく、掲示物やカードを活用して、継続的に運動意欲を高めていく。 ・朝のマラソンは、児童の意欲が持続するような工夫の実践を行う。 ・学校三師による保健指導に加え、歯みがき指導等の集団指導を計画し実施する。 ・持久走大会記録の更新へ向けた意欲付けを積極的に実施する。 ・保健だより等による児童・保護者への積極的な啓蒙を行う。 ・感染症や子どもが興味を示す健康に関する情報等、「保健だより」の紙面充実のための情報収集を行う。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目